

# 米国農務省穀物等需給報告(2019年4月9日発表のポイント)

平成 31 年 4 月 10 日  
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、4月9日(現地時間)、2018/19年度の11回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。  
- 2018/19年度の穀物の生産量は消費量を下回る見込み -

## 1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

生産量: 26億1,142万トン(対前年度比 0.2%減)  
消費量: 26億3,755万トン(対前年度比 1.5%増)  
期末在庫量: 7億8,826万トン(対前年度比 3.2%減)  
期末在庫率: 29.9%(対前年度差 1.4ポイント減)

[主な品目別の動向]

**小麦** : 世界の生産量は、旧ソ連諸国やEUの乾燥の影響から前年度より減少する見込み。世界の消費量は、EU等で飼料用需要の減少により下方修正され、前年度より減少する見込み。世界の消費量は生産量を上回り、期末在庫量は前年度より減少する見込み。また、米国では、飼料用需要の減退や輸出ペースの減速等から消費量及び輸出量で下方修正されたため、期末在庫量が上方修正された。

生産量: 7億3,287万トン(対前年度比 4.0%減)・・・米国等で増加、EU、ロシア、豪州、中国等で減少  
消費量: 7億3,915万トン(対前年度比 0.6%減)・・・中国等で増加、EU、ロシア等で減少  
期末在庫量: 2億7,561万トン(対前年度比 2.2%減)・・・中国、インド等で増加、ロシア、EU等で減少  
期末在庫率: 37.3%(対前年度差 0.6ポイント減)

**とうもろこし** : ブラジルで冬とうもろこしの単収の改善、アルゼンチンで作付面積の上方修正やEUでの生産量の上方修正等から、世界の生産量は上方修正され、前年度より増加する見込み。EUで消費量が上方修正され、世界の消費量は生産量を上回り、期末在庫量は前年度より減少の見込み。米国では、バイオエタノール向け需要の下方修正や、南米諸国等との輸出競争による輸出量の下方修正から期末在庫量が上方修正された。

生産量: 11億738万トン(対前年度比 2.9%増)・・・アルゼンチン、ブラジル、ウクライナ等で増加、米国、南アで減少(前月に比べ、EUで上方修正)  
消費量: 11億3,377万トン(対前年度比 4.3%増)・・・中国、EU、ブラジル等で増加、米国等で減少(前月に比べ、EUで上方修正、米国で下方修正)  
期末在庫量: 3億1,401万トン(対前年度比 7.8%減)・・・アルゼンチンで増加、中国、EU、米国等で減少(前月に比べ、米国で上方修正)  
期末在庫率: 27.7%(対前年度 3.6ポイント減)

**米(精米)** : 世界の生産量は、インドで夏期の降雨に恵まれ史上最高となる見通しから、前年度より増加する見込み。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度より増加する見込み。

生産量: 5億139万トン(対前年度比 1.2%増)・・・インド等で増加  
消費量: 4億9,239万トン(対前年度比 1.9%増)・・・インド等で増加  
期末在庫量: 1億7,137万トン(対前年度比 5.5%増)・・・中国、インド等で増加  
期末在庫率: 34.8%(対前年度差 1.2ポイント増)

## 2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

世界の生産量は、ブラジル中西部等での乾燥による単収の低下の影響が、南部のリオグランデ・ド・スル州での好天による生産量の上方修正により緩和されたことや、アルゼンチンでの生産増等から、前年度より増加する見込み。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度より増加する見込み。

生産量: 3億6,058万トン(対前年度比 5.5%増)・・・アルゼンチン、米国等で増加、ブラジルで減少  
消費量: 3億4,911万トン(対前年度比 3.1%増)・・・アルゼンチンで増加  
期末在庫量: 1億736万トン(対前年度比 8.4%増)・・・米国、アルゼンチン等で増加、ブラジル等で減少  
期末在庫率: 30.8%(対前年度差 1.5ポイント増)

大臣官房政策課食料安全保障室 西内、五十嵐 (内線3805)

# 世界の穀物・大豆の需給動向

2019. 4

(米国農務省2019年4月9日発表)

## 【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		(参 考) 2012/13	
				(予想)	前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)		前月差
<b>全体</b>							
生産量		2,662.03	2,616.13	2,611.42	▲ 0.2%	5.0	2,295.2
消費量		2,601.99	2,598.96	2,637.55	▲ 1.5%	▲ 2.6	2,284.5
期末在庫量		797.22	814.39	788.26	▲ 3.2%	9.3	478.4
期末在庫率		30.6%	31.3%	29.9%	▲ 1.4	0.4	20.9%
<b>小麦</b>							
生産量		756.40	763.19	732.87	▲ 4.0%	▲ 0.1	660.4
消費量		739.09	743.61	739.15	▲ 0.6%	▲ 2.9	680.3
期末在庫量		262.31	281.89	275.61	▲ 2.2%	5.1	179.6
期末在庫率		35.5%	37.9%	37.3%	▲ 0.6	0.8	26.4%
<b>粗粒穀物</b>							
生産量		1,414.69	1,357.45	1,377.16	1.5%	5.3	1,158.9
消費量		1,379.20	1,372.34	1,406.01	2.5%	▲ 0.1	1,139.5
期末在庫量		385.02	370.13	341.29	▲ 7.8%	5.1	175.9
期末在庫率		27.9%	27.0%	24.3%	▲ 2.7	0.4	15.4%
<b>とうもろこし</b>							
生産量		1,123.41	1,076.40	1,107.38	2.9%	6.2	898.0
消費量		1,084.14	1,086.73	1,133.77	4.3%	▲ 0.0	876.6
期末在庫量		350.75	340.41	314.01	▲ 7.8%	5.5	144.7
期末在庫率		32.4%	31.3%	27.7%	▲ 3.6	0.5	16.5%
<b>米(精米)</b>							
生産量		490.95	495.49	501.39	1.2%	▲ 0.2	475.8
消費量		483.69	483.01	492.39	1.9%	0.4	464.7
期末在庫量		149.89	162.37	171.37	5.5%	▲ 0.8	123.0
期末在庫率		31.0%	33.6%	34.8%	1.2	▲ 0.2	26.5%

## 【大豆】

項目	年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19		(参 考) 2012/13	
				(予想)	前年度比 前月差		
生産量		349.31	341.67	360.58	5.5%	0.5	269.1
消費量		330.78	338.58	349.11	3.1%	0.6	265.1
期末在庫量		95.65	99.05	107.36	8.4%	0.2	58.5
期末在庫率		28.9%	29.3%	30.8%	1.5	▲ 0.0	22.1%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(April 9, 2019)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、米(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、米(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向  
(米国農務省2019年4月9日発表)

2019. 4

【穀物】

(単位：百万ト)

項目	年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19 (予想)	2018/19		(参 考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
<b>全体</b>							
生産量		472.56	437.43	438.33	0.2%	0.0	353.0
消費量		363.61	357.92	358.58	0.2%	▲ 3.3	317.1
輸出货量		96.71	94.58	89.43	▲ 5.4%	▲ 2.6	51.6
期末在庫量		95.76	88.76	87.02	▲ 2.0%	5.9	44.2
期末在庫率		20.8%	19.6%	19.4%	▲ 0.2	1.6	12.0%
<b>小麦</b>							
生産量		62.83	47.38	51.29	8.3%	0.0	61.3
消費量		31.86	29.36	29.84	1.6%	▲ 0.3	37.8
輸出货量		28.60	24.52	25.72	4.9%	▲ 0.5	27.5
期末在庫量		32.13	29.91	29.58	▲ 1.1%	0.9	19.5
期末在庫率		53.1%	55.5%	53.2%	▲ 2.3	2.3	29.9%
<b>粗粒穀物</b>							
生産量		402.61	384.39	379.92	▲ 1.2%	0.0	285.3
消費量		327.52	324.28	324.45	0.1%	▲ 3.0	275.5
輸出货量		64.46	67.30	60.73	▲ 9.8%	▲ 1.9	20.7
期末在庫量		62.17	57.92	55.74	▲ 3.8%	5.0	23.5
期末在庫率		15.9%	14.8%	14.5%	▲ 0.3	1.5	7.9%
<b>とうもろこし</b>							
生産量		384.78	371.10	366.29	▲ 1.3%	0.0	273.2
消費量		313.83	313.97	311.55	▲ 0.8%	▲ 3.2	263.0
輸出货量		58.27	61.94	58.42	▲ 5.7%	▲ 1.9	18.5
期末在庫量		58.25	54.37	51.70	▲ 4.9%	5.1	20.9
期末在庫率		15.7%	14.5%	14.0%	▲ 0.5	1.5	7.4%
<b>米(精米)</b>							
生産量		7.12	5.66	7.12	25.8%	0.0	6.3
消費量		4.23	4.28	4.29	0.2%	0.0	3.8
輸出货量		3.65	2.76	2.99	8.3%	▲ 0.1	3.4
期末在庫量		1.46	0.93	1.70	82.8%	0.1	1.2
期末在庫率		18.5%	13.2%	23.4%	10.1	2.0	16.1%

【大豆】

項目	年度	2016/17	2017/18 (見込み)	2018/19 (予想)	2018/19		(参 考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		116.93	120.07	123.66	3.0%	0.0	82.8
消費量		55.72	59.00	60.66	2.8%	0.1	48.6
輸出货量		58.96	57.95	51.03	▲ 11.9%	0.0	36.1
期末在庫量		8.21	11.92	24.37	104.4%	▲ 0.1	3.8
期末在庫率		7.2%	10.2%	21.8%	11.6	▲ 0.1	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(April 9, 2019)

「Oilseeds : World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、米(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出货量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6~5月)、とうもろこし(9~8月)、米(8~7月)、大豆(9~8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。  
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds : World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

(参考1)

## 世界の穀物の価格動向(2019年)

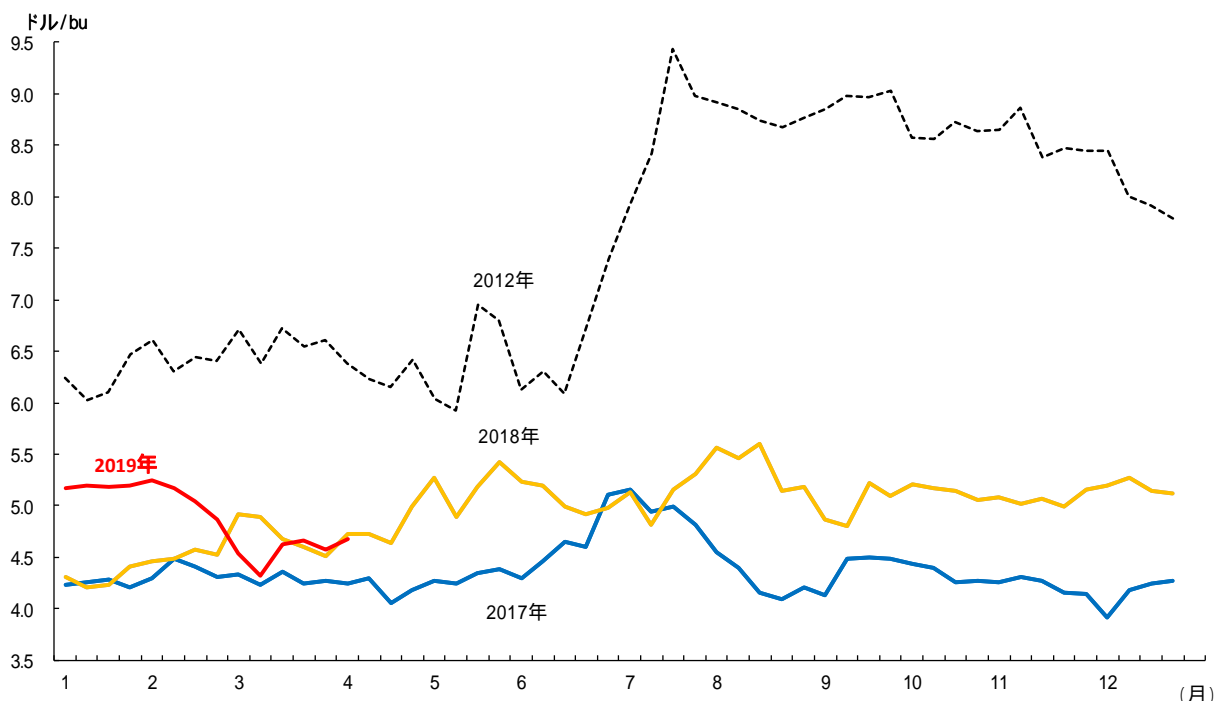
小麦: 4.68ドル/bu (前年同時期の価格: 4.72ドル/bu)  
(価格は、シカゴ商品取引所における4月第1週末の期近価格(セツルメント)。)

2018年1月以降、米国での乾燥や低温による米国産冬小麦の作柄懸念や春小麦の作付遅延から5ドル/bu台半ばまで値を上げた。

5月下旬以降、春小麦の生育懸念の緩和や冬小麦の収穫進展から価格は低下し、7月上旬に4ドル/bu台後半まで値を下げたものの、7月中旬以降、ロシア、EU等の乾燥による生産減懸念や米国農務省予測を下回る業界団体による米国産春小麦の単収調査結果から上昇し、8月上旬には5ドル/bu台後半に値を上げた(2018年最高値:8月6日、5.8ドル/bu)。

8月中旬以降は、ロシアの生産見通しの上方修正等から9月中旬に一時4ドル/bu台後半に値を下げた。その後は、9月下旬以降の豪州の干ばつによる生産見通しの下方修正、10月以降の大豆、とうもろこし価格の上昇等があったものの、世界的に供給が潤沢で、米国産小麦の輸出需要が低調であったことから、12月下旬現在5ドル/bu台前半で推移。

2019年1月以降、世界的に潤沢な供給も、ロシアの輸出量減少による米国産の輸出量の増加期待や米国主要産地での冬枯れ懸念等から価格は5ドル/bu台前半で下支えされたが、2月中旬以降、黒海沿岸諸国の輸出攻勢や3月の米国農務省需給報告で世界及び米国の期末在庫量が市場予想を上回ったこと等から4ドル/bu台前半に値を下げた。その後、洪水による米国産冬小麦の作柄悪化懸念や春小麦の作付遅延懸念等から値を上げ、4ドル/bu台半ばで推移。



注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。  
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

とうもろこし：3.63ドル/bu（前年同時期の価格：3.89ドル/bu）  
（価格は、シカゴ商品取引所における4月第1週末の期近価格（セツルメント）。）

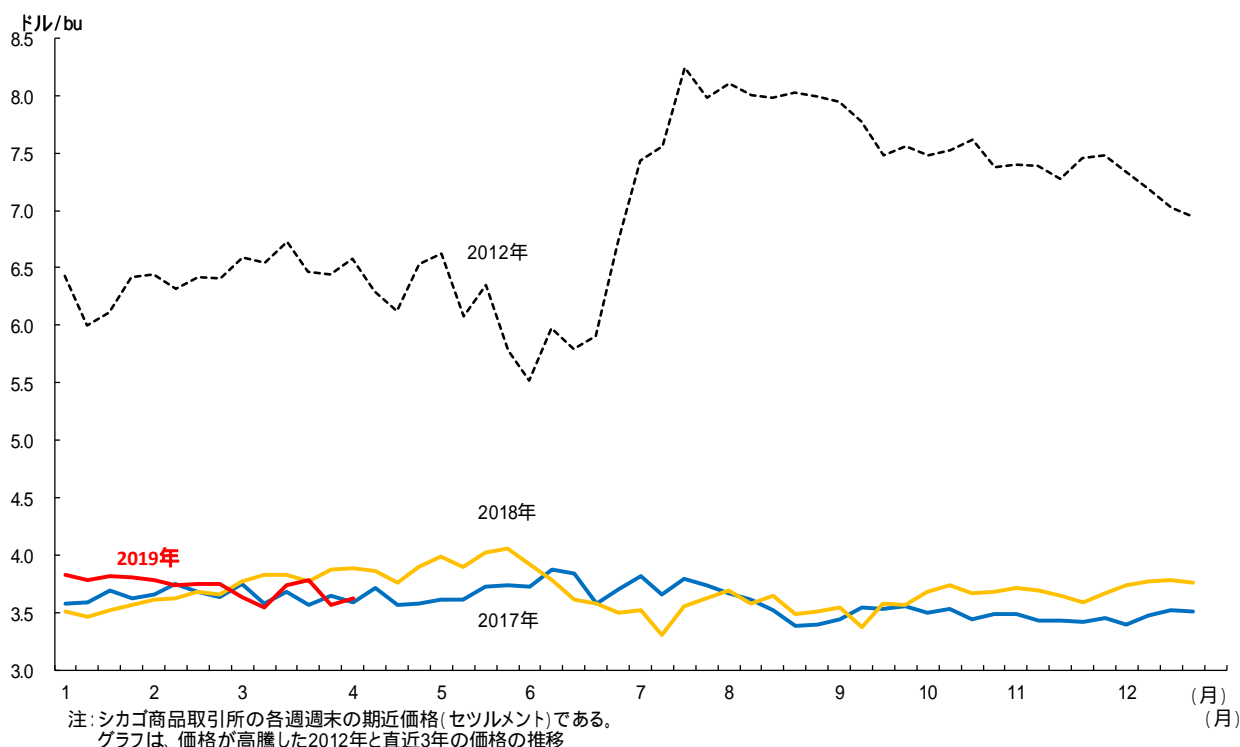
2018年1月以降、南米の乾燥等による作柄悪化懸念、米国中西部の作付け遅れ等から上昇し、5月下旬には4ドル/bu台に値を上げた(2018年最高値：

5月23日、4.1ドル/bu)。6月以降、米国で生育環境が改善され、7月中旬には3ドル/bu台前半に値を下げた。

8月上旬には、米国の堅調な輸出から3ドル/bu後半まで値を上げたものの、米国産の順調な生育から、9月中旬に3ドル/bu台前半に値を下げた。

その後は、米国の好調な輸出、10月及び11月の米国農務省需給報告での米国産の単収の下方修正から値を上げ、12月下旬現在3ドル/bu台後半で推移。

2019年1月以降、ブラジルでの乾燥天候による影響が懸念されたものの、2月の米国農務省需給報告で世界の期末在庫が上方修正されたこと、2019/20年度の米国産とうもろこしの作付面積が増加する見込みから、3ドル/bu台半ばで推移。



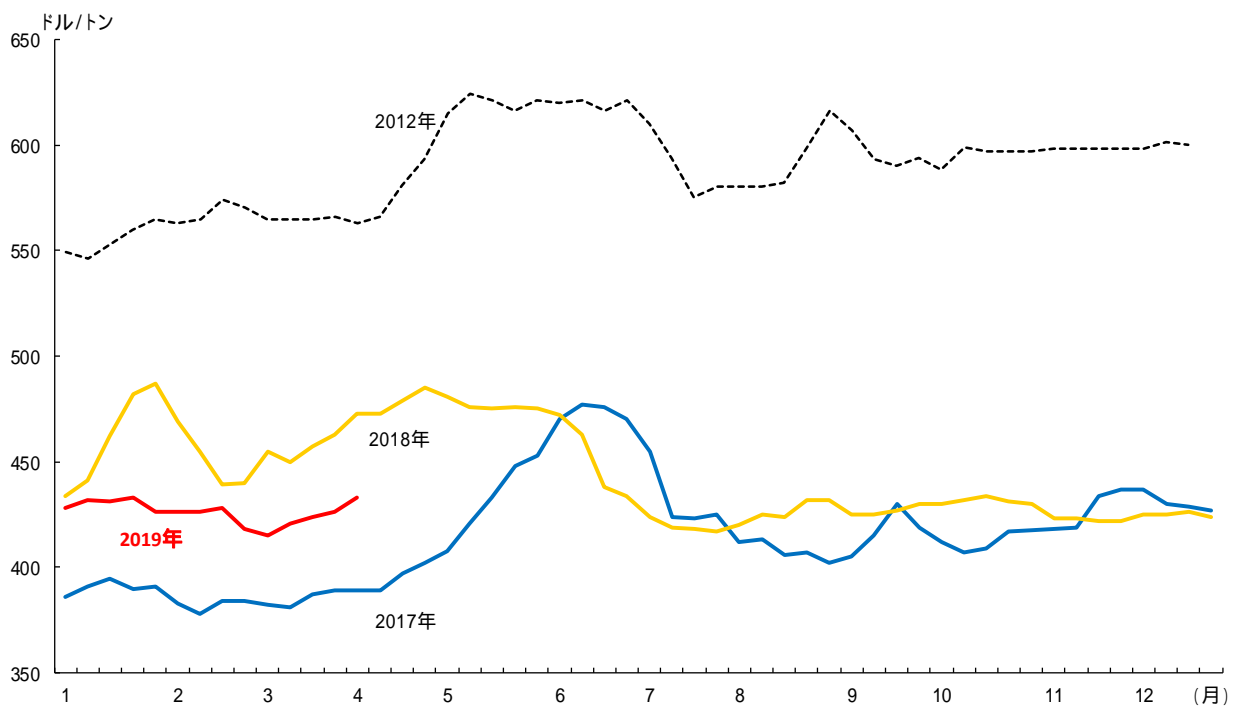
米：433 ドル/トン（前年同時期の価格：473 ドル/トン）  
（価格は、タイ国家貿易取引委員会における4月第1水曜日のFOB価格。）

2018年1月以降、バーツ高やインドネシア等からの需要により480ドル/トン台まで値を上げたものの、アジアからの輸入需要の緩和等から440ドル/トン台に値を下げた。

2月中旬以降、再びインドネシア等からの需要増から上昇し、4月末には再び480ドル/トン台まで値を上げたものの、6月以降、需要の緩和、バーツ安、タイ政府の在庫米の放出による供給増等から410ドル/トン台まで値を下げた。

8月以後、中国、台風の影響を受けたフィリピン等からの需要増やタイバーツ高で、430ドル/トン台で推移したものの、10月下旬以降のタイバーツ安11月以降のタイの新穀の出回等から、12月下旬現在、420ドル/トン台前半で推移。

2019年1月、タイの収穫遅延やバーツ高等から430ドル/トン前半で推移したものの、2月中旬以降、タイ新穀（乾季作）の出回り等による国内価格の低下から、410ドル/トン台半ばで推移。3月以降、タイのバーツ高や中国の輸入見込み等から値を上げ、430ドル/トン台前半で推移。



(注)タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格(各週水曜日)  
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格推移。

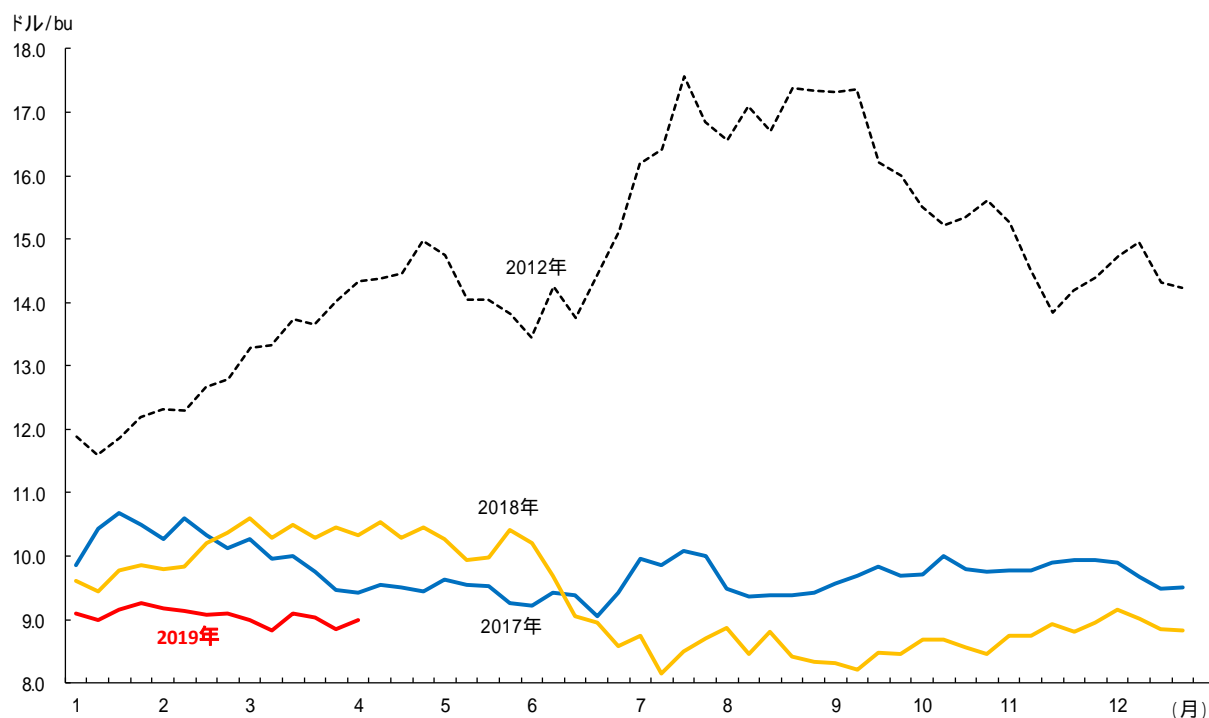
大豆：8.99ドル/bu（前年同時期の価格：10.34ドル/bu）  
（価格は、シカゴ商品取引所における4月第1週末の期近価格（セツルメント）。）

2018年1月以降、アルゼンチンの乾燥による作柄悪化懸念から上昇したものの、3月以降はブラジルの収穫の伸展、米中の通商摩擦への懸念等から10ドル/bu前後で推移した（2018年の最高値：3月5日、10.7ドル/bu）。

6月以降、米国301条発動を受けた中国の米国産大豆に対する対抗措置の発表、米国産の良好な生育状況から値を下げ、7月上旬には8ドル/BU台前半となった。

9月中旬以降、堅調なEU向け等の輸出需要や、降雨による米国産の収穫遅延懸念等から予測一時9ドル/bu前後まで値を上げた。その後、ブラジルで順調な生育状況となり値を下げたものの、12月には中国による米国産農産物の輸入再開への期待から値を上げ、12月下旬現在8ドル/bu台後半で推移。

2019年1月以降、米中の通商問題を巡る不透明感から一時値を下げたものの、ブラジルでの乾燥天候による影響懸念から9ドル/bu台前半で推移。2月半ば以降、米国産の中国向け成約のキャンセル等から値を下げ、9ドル/bu前後で推移した。その後も3月の米国農務省需給報告で世界の生産量が上方修正されたこと等から、引き続き9ドル/bu前後で推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。  
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

(参考2)

### 1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年 1月
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.16	110.77
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
107.82	106.00	107.43	109.69	110.03	111.37	111.06	111.89	112.78	113.37	112.45
2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
108.75	110.36	111.21								

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート  
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>  
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

### 2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年 1月
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	45.20
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
44.25	45.50	44.25	43.40	43.60	45.25	47.25	48.50	50.00	50.40	50.80
2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
45.25	40.00	40.80								

出典：米国(ガルフ) - 日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上  
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC Grain  
Market Indicators」  
月別は、週別価格の平均値(2019年4月は、2月27日から4月2日までの週別の平均値)。

### 3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターメディアート)

単位:ドル/バレル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年 1月
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	50.95	63.66
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
62.18	62.77	66.33	69.98	67.32	70.58	67.85	70.08	70.76	56.69	49.98
2019年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
51.55	54.98	57.84								

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」平成31年2月, 122頁  
但し、2019年3月は、米国エネルギー情報局(U.S. Energy Information Administration)「Weekly Petroleum Status  
Report」の週別価格(2.25 ~ 3.29)の平均値。